運動部交流会お疲れさまでした。「玉中の底力」をみられました！

玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 13
R2・7・27

３年生ありがとう，そしてお疲れ様！

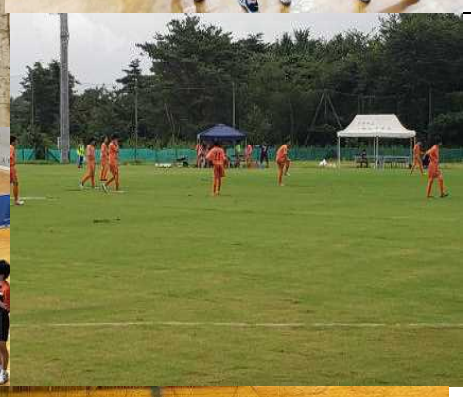
総体代替え大会終わる

十九日から行われてきた県東地区総体の代替大会が二十五日に終了しました。今回の代替大会は、潮来市の中学校との交流大会ということでしたが、どの競技においても県東地区総体と遜色のない熱い戦いが繰り広げられました。今回の代替大会を最後に三年生の部活動はひと区切りがつき、これからは一・二年生を支える立場に替わります。三年生にとっては、この新型コロナウィルスの感染拡大が部活動にも影響を及ぼし、途中、目標を失うこともあったかと思いますが、そんな中でも一生懸命今日まで部活動に取り組んだ姿は、これからの本校の伝統になっていくはずです。本当にお疲れ様でした。

今回もたくさんの競技会場を見学してきました。毎回、会場を訪れると、感動的な場面や勉強させられる場面に出くわすことができます。今回もいくつか紹介させていただきます。

「やればやるほど難しい・・・。」

テニス競技会場で試合が終わった本校の生徒に「試合はどうだった？」と試合の感想を聞きました。すると彼は「やればやるほど難しいということが分かった。」という答えが返ってきました。そうなんです。スポーツというのは、本気で取り組めば取り組むほど難しくなるのです。それは常に上を目指しているからそんなことを感じるのです。自分がもっと上手くなりたいと思うから、その競技の奥の深さを感じることができるのです。きっと彼は新チームでもっともっと大きく成長してくれるでしょう。



「僕たちも応援してもらったので、お返しに。」

サッカー競技会場に行くと、本校の生徒が応援に来ていました。聞くと、前日の自分たちの試合の時に、その部活の人たちが応援してくれたので今回はお返しに応援に来たということでした。簡単ということですが、なかなかこういうことはできないし、うれしい話です。自分が友だちを勇気づけられたので、今度は自分が友だちの応援で勇気づけられる、いい関係ですね。おかげさまで、素晴らしい戦いをすることができました。

他校の生徒の姿から「貢献」を学ぶ。

ある競技会場では参考になる姿を見ることができました。大会も終わりに近づき、そろそろ片付けというような段階になってきたとき、ある学校の生徒が誰から言われたのでもなく、自分たちから進んでいすや机を物置に運び始めました。他市の中学校の生徒でも、自分たちが使ったところは、自分たちで片付けるという姿、本校の生徒にも参考になる姿でした。

最近は子どもたちが試合で疲れているだろうと気を遣い、大人が何でもしてしまう。子どももそれを当たり前のように思っているところがあります。自分たちがお世話になった会場なのだから、自分たちで片付ける、その差がこれからの競技においての大きな差になっていくのではないでしょうか。

スポーツの世界には「心・技・体」という言葉が昔からあります。心を育てることが、技術よりも、体力よりも大事だと言うことです。ともすると「うまければいいや」という風潮がありますが、実は最後は「心の成長」が大切なんです。

編集後記

「ベンチで迎えた三年生へ」

三年間の部活動の集大成である代替大会が終わった。今回も多くの三年生が試合に出場して戦う中で、ベンチで最後の大会を迎えた三年生の姿もあった。きっと悔しかったに違いない。最後の試合に出たかったに違いない。でも、君たちが三年間の頑張っている姿をきっと誰かは見ていてくれたに違いない。決して無駄なら、試合に出ていた人以上に多くのことを学んだのかもしれない。少なくとも、試合に出られない人の気持ちは十分に分かったはずだ。一番よくないのは「自分はダメだ」と思うことだ。ダメではなく、中学校では「芽」が出なかった事だけにすぎない。この先、「芽」が出るときが必ずやってくる、「芽」が出るのが遅いだけなのだ。

あの大リーグのボストンレッドソックスの抑えの切り札として活躍した上原浩治選手だって、高校時代は二番手のピッチャーだった。ほとんど記録は残っていない。サッカーの本田圭佑や中村俊輔にしたって、中学校時代は試合に出られないことが多く、上のカテゴリーには上がれず、高校の部活動を選択するしかなかった。しかし、高校に入ってからあのようなすごい選手になっていった。だから、中学校で決まる訳ではない。

その三人に共通することは、そのときの悔しさを決して忘れず、黙々と練習に取り組んだことだ。だから、決してあきらめず、決してくさらず、自分が取り組んできたこの三年間を誇りに思い、次の場所で「花」を咲かせてほしい